



「〇〇の秋」まっただ中。何をするにしても気持ちのいい季節となりました。

運動会や体育大会も終わり、丹波の秋を満喫しながらの校外学習に社会見学、オープンスクール、部活動では新人戦も。そして、音楽会や文化祭の準備・練習も始まります。平成29年度も後半に入りました。さまざまな学習、行事、活動を通して丹波の子どもたちがぐんぐん伸びるのを楽しみに……。

今回は、丹波教育事務所SSWが実際に行っている学校支援についてお伝えします。

丹波教育事務所 学校支援チーム スクールソーシャルワーカー（SSW）の支援内容

「SSWの支援」と聞くと先生方はどのような内容を思い浮かべるでしょうか？
今まで支援に携わった学校と、そうでない学校ではイメージが違うかもしれません。

1. SSWによる学校支援の種類

① アウトリーチ

SSWが学校を訪れます。情報を共有し、必要に応じて対応を考えます。例) 学校訪問

② コンサルテーション

対応に悩むケース等について、SSWが福祉の視点からアドバイスをします。



③ 校内会議への支援

主に学校関係者で行う会議や委員会にSSWが参加し、情報交換を行うとともに、今後の対応を協議します。例) 支援会議、校内ケース会議

④ 関係機関合同ケース会議への支援

あるケースの課題解決に向けて、当該校だけでなく関係機関（福祉、保健、警察、出身校・園、その他）も参加し、対応を協議します。例) ケース会議

SSWは ④ 関係機関合同ケース会議への支援 のみと思われることもありますが
それ以外の活動もしています。

学校の支援段階に合わせて より効果的に活用していただければと思います。

2. S S Wとの連携事例 ※複数の事例を組み合わせる等して作成

アウトリーチ

訪問した〇〇中学校で、不登校である Aさん、Bさん、Cさん（共に3年生）について相談があった。後日、学校と支援の方向性を定める。

< Aさん >

前年度から不登校であり、現在、引きこもりの状態。より専門的な支援が必要という見解で学校と一致。早期に関係機関合同ケース会議を開催することになった。

< Bさん、Cさん >

別室登校をする等、全く登校できない状態ではないことから、S S Wは校内で行われるケース会議への支援を行うことになった。

校内ケース会議

事前に学校で打ち合わせを行い、Bさん、Cさんそれぞれの「今回検討したいこと」を伺った。当日はスクールカウンセラー（S C）とともに出席。

< 成果 >

ケース会議は「時間ばかりかかって何も決まらない」というイメージが先行していた。今回、予め検討事案を明確にしておいたことで、話のポイントが絞られた。その結果、情報共有で終わることなく、支援目標や役割分担を決定することができた。チームで方向性を決めて支援する良さが再認識されたことで、その後の定期的な会議開催につながった。

経過

Aさんについては、関係機関合同ケース会議を開催。各機関と連携して支援を継続している。

Bさんは別室登校できる日が増えた。現在、進学を目標に学習保障を行っている。

Cさんは行き渋りが続いているが、母親がS Cによるカウンセリングを受けるようになった。

様々な背景を持つ子どもたちに懸命に関わり、先の見えない現状に疲労を感じておられる先生方もいらっしゃると思います。そんな先生方が元気になって、その元気が子どもたちに届くような学校支援をS S Wは目指しています。



◇相談連絡先◇

丹波教育事務所教育振興課

079-552-7489